

## 平成30年産米の稲作反省と次年度対策

### 1 平成30年産米の作柄と品質の概況

今年の稲作は、田植え時期の5月連休時の強風・低温による植え傷みや除草剤の薬害発生等により茎数確保が遅れた。

6月～8月中旬までは高温無降雨が続き、穂肥時には栄養不足傾向となり追肥や穂肥は積極的に施用された。また、一部地域では干ばつ被害も見られた。

8月7～8日には台風13号に伴うだし風により一部地域で白穂が発生、8月23日には台風19号に伴う異常高温や強風、また9月4日は台風21号による強風で一気に倒伏が進むなど、台風の影響を強く受けた。

さらに8月24日以降は連日の降雨と低温・日照不足となり、コシヒカリなどの中晩生品種に登熟不良が発生し、作況指数90(不良)となった。

表1 作柄概況と1等級比率(主食用米 10月末現在)

作況指数	区分	1等級比率(%)	
		コシヒカリ	こしいぶき
下越北 90 (不良)	J A北蒲みなみ水原	83.4	82.4
	J A北蒲みなみ安田	35.5	68.3
新潟県 95 (やや不良)	J A北蒲みなみ京ヶ瀬	86.9	65.0
	J Aささかみ	83.8	83.9
全国 99 (平年並)	阿賀野市	81.3	82.6

### 2 作柄や品質に影響した主な事項

穂数  
早生:並~やや少  
中生:やや少

一穂粒数  
早生:並~やや多  
中生:やや多

m<sup>2</sup>粒数  
早生:並  
中生:並

作況指数 90  
(下越北)

玄米重 480kg/10a  
(1.85篩目収量)

北陸農政局統計情報  
10月15日現在

千粒重  
早生:並  
中生:やや小

登熟  
早生:並~やや不良  
中生:不良

品質  
早生:やや不良~不良  
中生:やや不良~不良

- ・苗質:並~やや不良
- ・活着:不良、初期生育抑制
- ・アオミドロ、表層剥離多発生
- ・除草剤の薬害発生やや多
- ・分けつ:2号、3号分けつの発生不良
- ・初期生育不良により茎数不足
- ・ワキの発生:やや早く、多い
- ・空梅雨で水不足、一部地域で干ばつ発生
- ・6~7月高温で経過し穂肥前葉色低下
- ・穂肥の積極施用による栄養確保
- ・一発タイプコシヒカリで一部栄養不足(追加穂肥なしほ場)
- ・穂肥実施により出穂期以降の葉色確保
- ・8/21~23の異常高温(胎内市で40℃超)
- ・8月6半旬以降の低温・日照不足(登熟不良、遅延)
- ・相次ぐ台風の接近による強風・フェーン(稲体の傷み、老化加速)
- ・台風21号の強風で倒伏進展
- ・8月6半旬以降の日照不足で登熟低下
- ・収穫期の連続降雨でもち品種等で穂発芽
- ・中・晩生品種で未熟粒多く収量・品質低下
- ・カメムシによる斑点米は少発生

#### 問題となった事項

除草剤による薬害やアオミドロの発生が多かった。

植え傷みや薬害等により下位分けつの発生が劣り、初期生育の確保ができなかった。

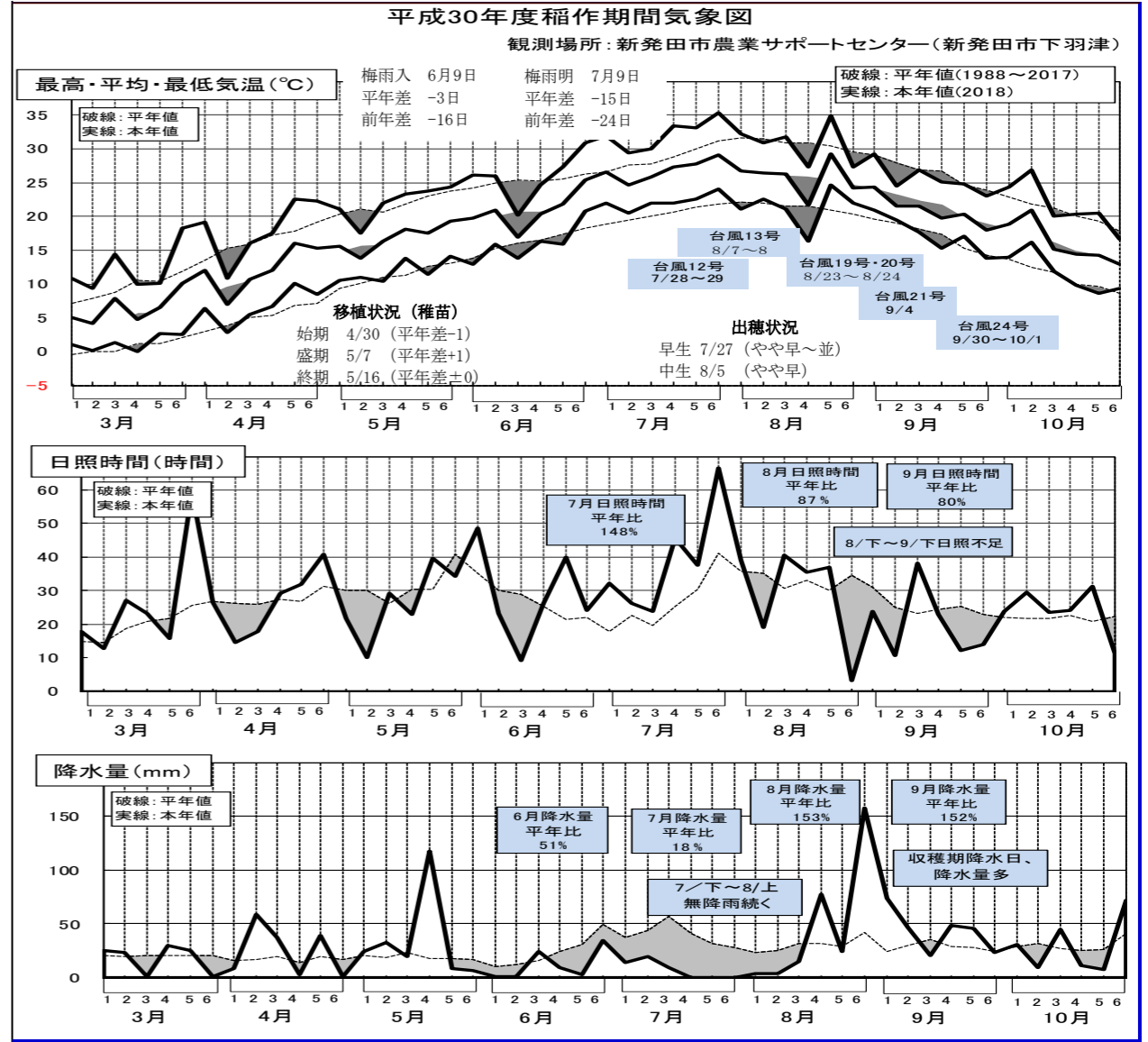
一発タイプのコシヒカリでは穂肥前に栄養不足となり追肥無施用では収量・品質の低下が大きかった。

台風の襲来が多く、度重なる強風により、白穂の発生や稲体の傷み、倒伏が進んだ。

もち品種では、収穫期の連続降雨により穂発芽や胴割れ米の発生が多かった。

台風20号に伴う異常高温やその後の日照不足等により登熟が不良となった。

### 3 稲作期間の気象経過と特徴



#### 水稻の作柄に影響の大きかった気象要因

(1)田植期の低温と強風

月日	5/4	5/9	5/10	5/19	5/20
平均気温(℃)	11.0	11.6	10.5	11.9	12.9
月日	5/4	5/5	5/9	5/13	5/18
最大瞬間(m)	16.8	13.3	12.8	14.1	15.7

(2)7月9日~8月13日まで(35日間)の降雨量

降雨日(1mm以上): 4日  
 降水量: 18mm(平年比7.3%)

(3)8月21日~8月23日の高温

月日	8/21	8/22	8/23
最高気温(℃)	36.2	36.6	38.7

(4)8月下旬~9月末までの日照時間

本年	124.2時間(平年比66.7%)
平年	186.3時間

(5)8月25日~9月17日まで(24日間)の降雨

降雨日	20日(83%)
無降雨日	4日(17%)

(6)台風時の最大瞬間風速

月日	7/29	8/7	8/23	8/24	9/4	9/12	10/1
風速(m/sec)	16.2	11.3	13.1	17.4	28.4	15.2	17.7

※用語解説

上旬:1日~10日、中旬:11日~20日、下旬:21日~30日(31日)

1半旬:1日~5日、2半旬6日~10日...6半旬:26日~30日(31日)

## 4 平成30年新発田農業普及指導センター管内における業務用米生産の結果

- 【つきあかり】 ・ 10経営体の平均実収は571.7kg/10a（480～630kg）。
- ・ 低位の分げつ発生率が低く、初期茎数の確保ができなかった。
  - ・ 管内全体の1等級比率は2.5%（10月31日現在）であり、主な格落ち要因は心白粒であった。
- 【あきだわら】 ・ 9経営体の平均実収は554.7kg/10a（490～660kg）。
- ・ 晩生品種のため8月第5半旬以降の台風、低温、少照の影響を強く受けた。
  - ・ 管内全体の1等級比率は53.8%（10月31日現在）であり、主な格落ち要因は除青未熟であった。

表：つきあかり、あきだわらの市町別平均収量 単位：kg/10a

	新発田市	聖籠町	胎内市	阿賀野市	管内平均
つきあかり	567.9	-	567.0	581.0	571.7
あきだわら	544.8	508.0	-	586.7	554.7

## 5 次年度に向けた課題と対策

### 1 初期生育の安定確保

- ・ 除草剤の適正使用（強風・ワキ・異常高温時の散布回避）
- ・ 適正な水管理の実施（漏水防止、保温的水管理）
- ・ 健苗の育成と適期移植

### 2 災害（強風等）に備えた土づくり

- ・ 自然災害の軽減等に向けたケイ酸質肥料や堆肥等有機質資材の施用による緩衝力の強化

### 3 生育診断の実施による適正な追肥対応（特に一発タイプコシヒカリ）

- ・ 生育診断に基づく適正な追肥（穂肥対応）による後期栄養の確保

### 4 気象状況（予報）を踏まえた臨機応変な作業対応

- ・ 気象変動に対応した臨機応変な作業対応（水管理、収穫対応など）

### 5 品種の特性を踏まえた病害予防対策

- ・ 晩生品種の極端な遅植え回避
- ・ 新之助のいもち病、紋枯病、イネツトムシ等の対策徹底
- ・ わたぼうしの墨黒穂病対策の徹底

